

新型コロナウイルス感染症による自宅療養者への食料品支援を終了します

村では、これまで新型コロナウイルス感染症による自宅療養者のうち、食料品の確保が困難な方に対して、日常生活を営むために必要な支援を行っていましたが、国による療養期間等の見直しから一定期間が経過したことにより、3月31日(金)をもって、本支援を終了することとしました。皆様のご理解をお願いします。

【問い合わせ】地域福祉課地域福祉推進担当(☎282-1711 内線1140)

新型コロナウイルス感染症に罹患(りかん)していても、外出が可能な場合があります

国による療養期間等の見直しにより、無症状の方や症状が軽快してから24時間を経過した方については、マスク着用等の自主的な感染拡大への対策を徹底していれば、食料品の買い出しなど必要最小限の外出は差し支えないとされています。

日頃から食料品等の備蓄をお願いします

新型コロナウイルス感染症の陽性者や濃厚接触者となり療養または待機となった際に、食料品や日用品が不足して困ることのないよう、日常生活を営むために必要な物の確認と備えをお願いします。食料品等を備蓄することは、自宅療養時だけでなく、地震等の災害の備えとしても役に立ちます。この機会に、ご自宅の備えを見直してみましょう。

【備えておきたい食料品・日用品の例】

▽食料品…米、乾麺、レトルト食品、ペットボトル飲料、ゼリー等

▽日用品…常備薬、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、ゴミ袋、生理用品、せっけん、洗剤、マスク、アルコール消毒液、衛生用品等

村松晴嵐「クロマツ林」リジェネプロジェクト 「クロマツ植樹体験」を行いました！

2月12日に一般参加者が、2月16日に照沼小学校の5・6年生が、村の木であるクロマツの勉強会および植樹体験を行いました。これは、松くい虫の被害により松林の景観が損なわれてしまった東海十二景の一つである村松晴嵐を、以前の姿へ再生しようと令和元年度から始まった取り組みです。

今回は3年ぶりに一般参加者を対象とした植樹体験を再開し、2日間で合計98人の方が、470本のクロマツを植樹しました。参加者からは、「自分の植えたクロマツが大きくなるのが楽しみ」、「散歩するときにクロマツに注目して歩きたい」といった声が聞かれました。タイトルにある「リジェネ」には“ゆるやかな回復”という意味があります。村では、50年、100年と長い時間をかけてクロマツ林を見守り、景観の再生に取り組んでいきます。

村松晴嵐「クロマツ林」リジェネプロジェクトは、令和元年度から市町村への譲与が始まった「森林環境譲与税」を活用しています。詳細は、村公式ホームページ(右の二次元コードからアクセス可)をご覧ください。



【問い合わせ】農業政策課農業振興・農地保全担当(☎282-1711 内線1222)